活動状況報告（12 月）

学生留学コース　５期生　酒井　友希

12 月は太陽光が少なくなり、10 時に太陽が上がり 14 時に夕焼けが見える状況になってきました。最初の２週間は日光不足でビタミン D をタブレットで摂取しているとはいえ、気分が晴れず、頭がぼーっとすることが増えてきていました。日光は少ないですが、冬の景色が綺麗で大学のプログラムで知りあったフィンランド人の家族とハイキングをしました。14 歳のフィンランドの友達と簡単な英語でコミュニケーションをとって、親子で雪がより深くなるとスノーモービルに乗って冬を楽しむそうです。また、新年が明けてからも家族一同と交流を深めてくのが楽しみです。

大学の CSR（Corporate social responsibility 社会的責任 ）の授業で Lappset という企業に訪問をしました。公共の施設からテーマパークの遊具やシニア向けの公園など手掛けている会社です。フィンランドに本社があり、日本を含め他の国との取引でフィンランド産の木材を使用した遊具が人気なようです。会社訪問では遊具を作る工場見学をし、木材の遊具が木材を使っていない遊具と比べて生産段階で二酸化炭素の排出が少ないことを教えていただきました。ESG に力を入れている会社である為、取引先の会社が仮にテーマパークだとすると「サステイナブルツーリズム」は使っている遊具からも配慮ができることに気づきました。

12 月といえばクリスマスですが…　実際 11 月からずっとロヴァニエミはクリスマスムードになっていました。12 月上旬に学校の食堂でフィンランドのクリスマスの食べ物を食べる機会がありました。フィンランドはハム、ニシン、さつまいも・人参のキャセロール（潰して鍋であためている料理）、Pâté という豚の肝臓でできたミートローフのような食べ物、ビーツのサラダ…かなり馴染みのない食べ物が多かったです。他のヨーロッパの国や北米とは全然違うものを食べるということで少しカルチャーショックでした。

そして、クリスマス当日は思いの外にポーランドにいました。大学で仲の良い友達がポーランド人なので彼女の実家へ行きました。ロヴァニエミの大学の学生寮は帰国ラッシュと現地生のフィンランド人も実家に戻る人が多く、学生寮は少し寂しく、誰かの実家で伝統的に過ごしたいということでポーランドへ渡りました。ポーランドはカトリックを信仰している人がほとんどで、祝い方がカトリックの伝統的なものでした。

私の友達の家族はクリスマスの歌を歌うのが好きで、ご飯を食べた後はクリスマスキャロルを１時間くらい歌っていたと思います。クリスマスキャロルのほとんどは聞いたことがなく、一曲だけフィンランド語で歌われているのを聞いたことがありました。ポーランドの代表料理であるピエロギを人生で食べたことのない量を食べました。クリスマス特有のピエロギはポーランドボルシチ（具材がないビーツの赤い汁）に「小さい耳」という小さめのピエロギが入ったものが伝統的なクリスマス料理でした。ポーランドボルシチは具材なしでコップからそのまま飲む時もあります。また、イブの 24 日にクリスマスのプレゼントを開けることも驚きました。カナダやアメリカのように 25 日の朝に開けるかと思っていました。24 日の夜中（24 時から 25 時）には教会へ行ってそこではまた、皆んなでクリスマスキャロルを歌い、神父の面白い話を聞きました。当然、全部ポーランド語で話していたので全く神父が何を言っているのか理解できず、雰囲気で楽しみました。

友達の祖母はウクライナの避難している家族にボランティアで家の一部を貸しています。クリスマスイブは家族 3 世帯みんなでご飯を食べた時に少しだけウクライナの家族（中学生くらいの女の子とお母さんと叔母の３名）も一緒にクリスマスを過ごしました。友達の祖母の家に住んでいるウ

クライナの家族達の話は言語の壁で理解はできませんでしたが、戦争の悲しい出来事を空気から感じました。

ポーランドではウクライナの方が 100 万人ほど増えている状況で、ウクライナからの避難民を一番受け入れている国です。ポーランドにはウクライナ語の看板が多くありました。クリスマスをポーランドで過ごすと決まった際に何かウクライナ支援をしたいと思ったのでボランティアに参加しました。旧市街で有名なクラクフでウクライナの方々にスープを作って提供する団体でボランティアをしました。(Zupa dla Ukrainy Kraków / Soup for Ukraine Krakow、Facebook で調べると団体について出てきます。https://www.facebook.com/groups/991742504774425)この団体はウクライナ式ボルシチ（ポーランドのものよりも具材が多く入っている）を作りジャーに入れてウクライナの方に配っています。ボルシチ以外に多くの食料を分配しています。油、砂糖、野菜、ペットの餌、パン、シリアル、蕎麦の実などを小分けにした袋を作っていました。

私は二日間ほどボランティアをして、１日目はボルシチ作りで野菜を切ったりしていました。２日目は野菜を小分けにする作業をしました。野菜をとって袋に入れる作業は過去に北海道でした農業経験が手際の良さに繋がっていたと思います。1 日目に作った熱々のボルシチは出来上がってジャーに移した後に外の箱に置き、次々と取りに来る人がやってきました。２日目の野菜は次の日に渡す予定で、100 袋（100 家族分）ほどできました。食料はウクライナの方がもらう申請をする必要があり、なるべく偏りなく多くの家族に分配されるようになっています。人々がマイバックに配給されたものを入れていく様子は素晴らしいですが、このような事態になっている現実がやはり悲しかったです。そして、私は残念ながらたった二日間だけのボランティアでしたが旅先で出会ったアメリカの大学生にボランティアを紹介しました。彼も私がポーランドを離れてからボランティアへ行っていました。さらに、旅先で知り合った現地のクラクフの友達二人にボランティアを教えました。私はもう現場にいないですが、現場はまだ人手不足なのを感じました。現場にいない自分は力仕事ができない為、最低できることは寄付、自分の体験を共有すること、そして力仕事ができる人に伝えることだと思いました。これを一緒にボランティアをしたイタリア人の友人に伝えると

“I believe our main role as ″passing by international volunteers″ is to witness international solidarity in all ways possible”

と言っていました。日本語で訳すと

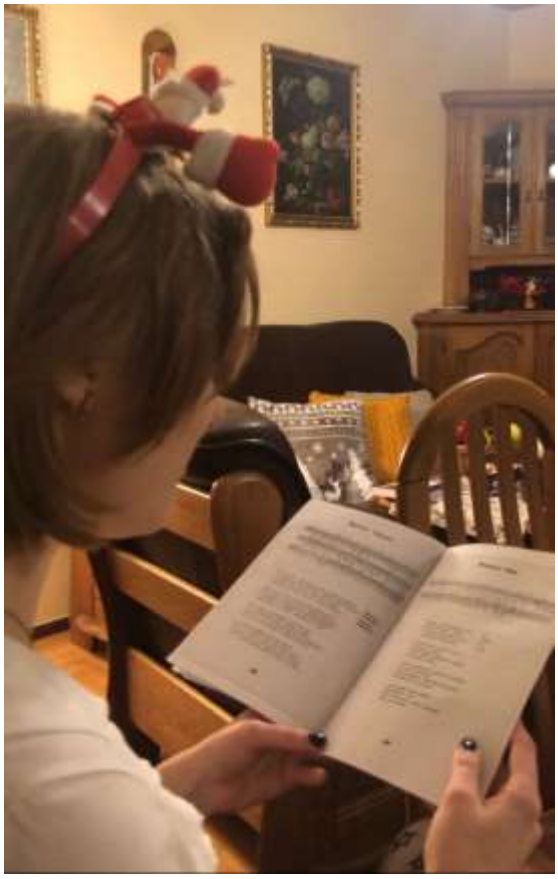
「僕たち『通りかかりのボランティア』としての役割は国際連帯をあらゆる方法で見つけることだ」

フィンランド留学を始めて、ウクライナの学生にたくさん出会い、ウクライナのことが段々と他人事ではなくなりました。留学当初は年末にこのようなボランティアをしているのは想像ついていませんでしたし、最初の計画書を考えるとあまり予想していなかったことは書いていますが、日本にいる皆さんにウクライナのことを考える機会になると幸いです。小さいことではありましたが、ボランティアを探して力になれてよかったです。

LAPPSET

フィンランドのクリスマス↓

クリスマスキャロルの本↓



訳：ウクライナの方へスープ

スープ作り↓

廊下の作業場↓

配給用の野菜↓

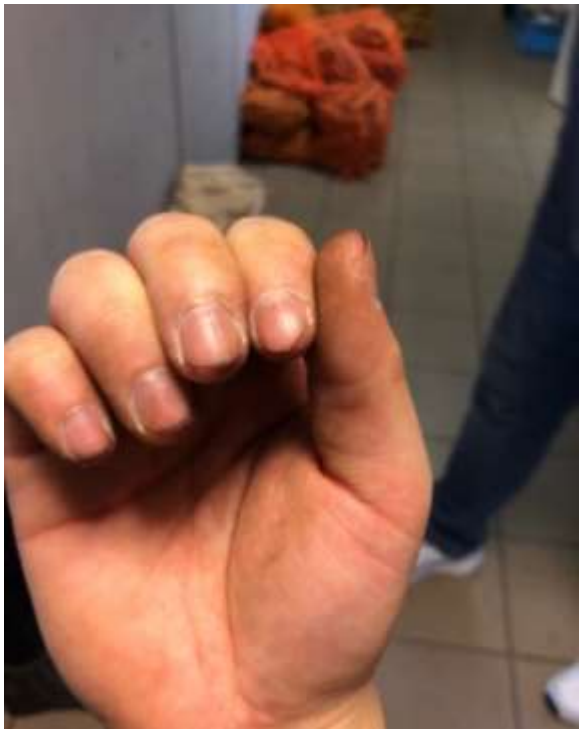
袋の内容

・人参２本

・ビーツ２個

・じゃがいも７個

・玉ねぎ５個

・白人参２本

手はドロドロに　→